

## <よく見ていないのではなく、見えていない？>

皆さん普段の生活の中で、子ども同士または一人でも壁にゴチン！「あ！危ない…！」なんてヒヤリとすることがありませんか？そんな時「もう、ちゃんと見てよ～」とったりしますよね？

### <子ども達の視力って？>

「子どもは私達大人よりもよく見えていない」というのを、どこかで聞いたことがあると思います。では具体的に数字で表してみると…？

1歳	2歳	3～4歳	5～6歳
0.2	0.4～0.6	0.6～0.8	1.0

数字で見ると、「え、こんなに低いの?!」と感じた方もおられるのではないですか？

生まれたばかりの赤ちゃんは“明るさがわかる程度”とされています。

最初は、ぼんやり見えています、物を見る経験を積んでいくことで段々とはっきりと見えるようになります。

年長くらいになると、少しは大人と同じように見ることが出来るようです。

### <子ども達の視野は？>

子ども達が物をぼんやり捉えていることがわかったところで…では視野は？  
いったいどのくらいの範囲が見えているのか？というところ…

	6歳	大人
左右	90°	150°
上下	70°	120°

6歳での視野が大人の半分ほど…ということは、6歳以下の子はもっと視野が狭いことがわかります。写真で比べてみると、はっきりしますね。



左は大人が見ている世界、右が6歳の子が見ている世界です。圧倒的に視野の狭さを感じます。  
(そして6歳以下の子は、この狭さにプラスして景色がぼやけて見えます。)

### <だから怪我が起きやすい？>

視力も未発達で、どんな物がどのくらいの距離にあるのか正確に察知することが難しく、視野も狭いので、本当に危険が近くに来てから気づくことがほとんどです。

ですから幼児期は、ひとり歩きをしないよう必ず保護者と手をつないで歩きましょう。

駐車場や道路以外の場所でも、急に駆け出してしまうことがあるので注意が必要です。

大人は“なんで気づかないの？”“なんでよく見てないの！”と思うことがありますが、「よく見てない」のではなく「見えていない」のが正解。

子ども達が見えている世界を頭に浮かべながら、私達大人も関わり方を考えていきましょう。

(本間)